

SEAFDEC(東南アジア漁業開発センター)の概要



東南アジア地域の持続的な水産業発展のための漁業開発の促進を行うことを目的として1967年に設立された国際機関。我が国及びASEAN加盟国の計11か国で構成。

1. 加盟国

日本、タイ、マレーシア、フィリピン、シンガポール、ベトナム、インドネシア、ブルネイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー

2. 意義

SEAFDECの活動は、東南アジア地域の水産資源の持続的利用に貢献。

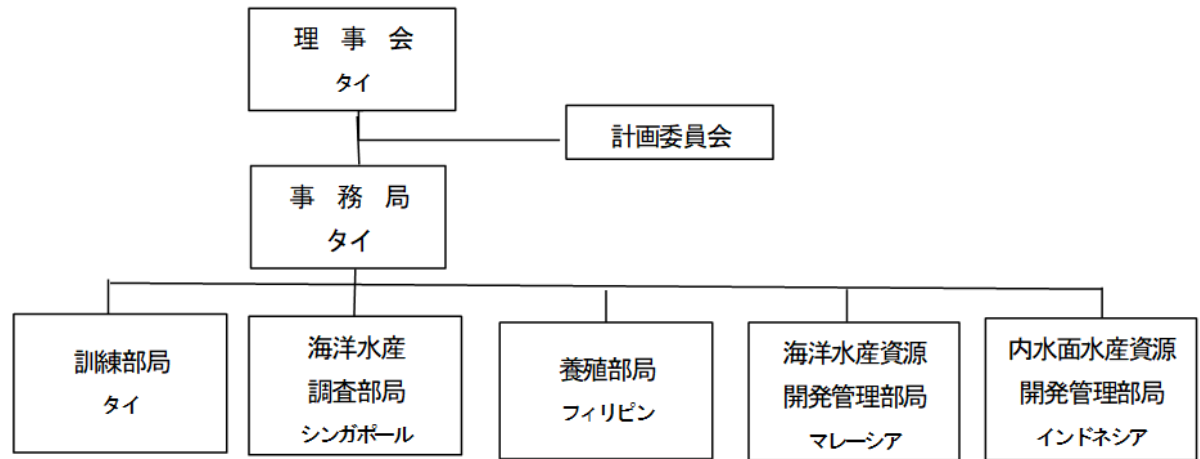
また、国際漁業問題における我が国の立場について、SEAFDECを通じてASEAN加盟国との共通理解を醸成し、連携を強化。

3. 我が国の貢献

- ・活動予算の約2割を我が国が拠出
- ・事務局次長、部局次長等に水産庁職員、(国研)水産研究・教育機構職員を派遣

4. 組織

年に1回、加盟国持ち回りで開催される理事会のほか、事務局及び専門分野ごとに5つの部局で構成



5. 主な活動

- ・水産資源の持続的利用に影響を及ぼす国際情勢の共通理解の促進と対応能力の強化
- ・漁船登録システムの開発・普及
- ・サメ・エイ、ウナギ類の資源管理の強化
- ・環境に配慮した持続的養殖手法の開発・普及 等